

(準備研究)

明末清初、マンチュリアにおける社会変動と地域秩序

塚 瀬 進*

Susumu TSUKASE

研究実績の概要

平成22年度以来、明代後半から清朝前期にかけてのマンチュリアの社会変動について研究をおこなってきた。平成22年度(2010年)は「明朝後半期におけるマンチュリアの社会変動と統治機構の検討」、平成23年度(2011年)は「明末～清朝前半期のマンチュリアにおける社会変動と地域秩序」、平成24年度(2012年)は「明末清初、マンチュリアにおける社会変動と地域秩序」、という研究テーマで関係史料の収集、分析、先行研究の消化をおこなってきた。

平成22年度から3年間、研究助成金を得ることができたため、関係史料である『明実録』、『満文老档』の購入、および中国で刊行された関係図書、論文の収集をすることができた。とくに国会図書館までの出張費を得たことにより、国会図書館が購入している中国学術雑誌データベースを活用することができ、多数の関係論文を収集することができた。

明末清初期のマンチュリア史に関する研究は、日本、中国でも近年大きな進展をみせており、研究成果は多数ある。平成22年度以来、その整理は懸案となっていたが、本年によりやく終了し、その成果は「明末清初におけるマンチュリア史研究の現状と課題(上、下)」『長野大学紀要』34-1、34-2 2012 pp. 9-26、pp. 15-52、として発表することができた。整理した図書、論文数は800点あまりに達した。

また明末清初期の研究整理とあわせて、明代マンチュリア史についての研究整理もすすめていたが、これも本年度に終了することができた。「明代マン

チュリア史研究の現状と課題(上、下)」『長野大学紀要』34-3、35-1 2013 pp. 49-67として、紀要に発表することができた。整理した図書、論文数は600点あまりに達した。

こうした研究整理と並行して、明代中期、後期におけるマンチュリアの社会変動と統治政策についての研究をすすめた。関係史料を『明実録』や『満文老档』から抽出する作業、明末の関係史料の分析をおこなった。その結果、以下のような見解を得ることができた。

明朝が遼東統治でおこなっていた衛所制度は、屯田が崩壊し、逃亡する軍士が多数おり、明前期のような状況にはなかった。屯田崩壊の要因は、官吏や軍の上官が私利を獲得するため、軍士の給与を横領したり、自分らの田地の耕作に軍士を使役していたことに起因した。軍士の多数が逃亡したため、遼東の軍事力は低下した。一方、ヌルガン地区でおこなわれた羈縻衛所制、馬市制度も明代中期以降に変容していた。羈縻衛所制にしたがって朝貢する女真は、従前のように馬市で交易できなくなり、明朝への不満を増大させていた。明朝は女真の不満は承知していたが、財政窮乏のため馬市での交易を制限する政策をおこなっていた。こうした明朝の政策に対して女真は、朝貢勅書の改ざん、略奪などの方法により抵抗した。嘉慶年間に女真間では朝貢勅書の取り合いが繰り広げられ、その抗争に勝利したのがヌルハチらであった。明代中期、後期以降、明朝が遼東でおこなっていた衛所制度、ヌルガン地区でおこなっていた羈縻衛所制度は大きく変容していたことが明

*環境ツーリズム学部教授

らかになった。ヌルハチは明朝との友好関係のなかで自己の勢力拡大をはかっていたが、17世紀初頭に対明戦争を決意して、明朝からの独立をおこなった。以上の経緯については原稿化が終了し、「明代中期・後期におけるマンチュリアの社会変動と統治政策」『長野大学紀要』34-2 2012 pp. 53-64、として発表した。

平成22年度、23年度、24年度の3年間に、明末清初のマンチュリアに社会変動に関する研究を終えることができた。先に発表をしている、「元末・明朝前期におけるマンチュリアの社会変動と地域秩序形成」『長野大学紀要』32-1 2010 pp. 75-92、とあわせて、明代から清代に至る、マンチュリアの社会変動を明らかにすることができた。今後はこれまで発表してきた論考を統一的にまとめ、「マンチュリアにおける社会変動と地域秩序—14世紀から国共内戦期まで—」という研究論文を完成することをおこないたい。

研究発表

雑誌論文

1. 塚瀬 進「明末清初におけるマンチュリア史研究の成果と課題(上)」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻1号、2012年7月、pp. 9-26
2. 塚瀬 進「明末清初におけるマンチュリア史研究の成果と課題(下)」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻2号、2012年11月、pp. 15-52
3. 塚瀬 進「明代中期・後期におけるマンチュリアの社会変動と統治政策」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻2号、2012年11月、pp. 53-64
4. 塚瀬 進「明代マンチュリア史研究の現状と課題(上)」長野大学紀要、査読の有無・無 第34巻3号、2013年3月、pp. 49-67
5. 塚瀬 進「明代マンチュリア史研究の現状と課題(下)」長野大学紀要、査読の有無・無 第35巻1号、2013年7月、pp. 27-49